

モノづくりは日本の根幹 人材教育で技術力を上げ、新興国と戦う

ダイネット

ダイネット(大阪府堺市堺区)は、創業1813年。まもなく200周年を迎えようという老舗企業だ。江戸時代に炭問屋としてスタートし、コークスの製造工場で浸炭焼き入れを始めたことをきっかけに熱処理事業へと参入。その後1944年に「大阪兵器熱工」として会社組織化し、軍需関連の熱処理加工を手がける。1992年に社名をダイネットに変更。現在では船舶部品や自動車部品など、大小さまざまな機械部品の熱処理加工を行っている。

「日本国内で熱処理の仕事を維持するためには技術者の養成が必要」と語る葛村安弘専務に、同社の改善活動について伺った。

——事業内容を教えてください。

葛村 当社はグループ会社である三洋金属熱錬工業(堺市美原区)、ダイネット商事(同堺区)などと連携しながら総合的な熱処理加工を行っています。ダイネットは本社工場(同)、ミナト工場(同)、高知県にある高知工場の3拠点で船舶用部品や、風力発電装置用部品、建設機械部品など大型部品の熱処理を、



後段左から金澤一博氏、生産部作業長 西谷豊晃氏、田邊勝氏、嶋田好一氏、専務取締役 葛村安弘氏
前段左から生産部課長代理 宮崎康年氏、生産部取締役生産部 長岡本豊三氏

三洋金属熱錬工業は自動車部品など比較的小物の熱処理が担当です。ダイネット商事は材料である鋼板の加工・販売を担当しています。グループ全体の売上高は約100億円です。

——最近では海外に製造拠点を移す企業も多いですが、一貫して国内でのモノづくりにこだわっていますね。

葛村 熱処理加工、特に当社が手がける大型の熱処理加工は高い技術力が要求され、また輸送費なども高額なことから、海外流出は進

んでいない仕事です。

ただ、最近では中国・韓国の熱処理メーカーも技術力が上がっており、油断はできません。当社は受託加工の業態なので顧客の意向によっては海外についていくこともあるかもしれませんが、できうる限り地元の堺市でモノづくりをしていきたいと思っています。

——人件費の高い日本国内で製造を続けるためには、徹底した生産効率化とそれを支える改善活動が不可欠です。活動内容を教えてください。

高い技術力が要求される熱処理加工